



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月7日

上場取引所 東

上場会社名 キョーリン製薬ホールディングス株式会社
コード番号 4569 URL <http://www.kyorin-gr.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 正弘

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 伊藤 洋
グループ経理財務統轄部長

TEL 03-3293-3420

四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日

配当支払開始予定日

平成24年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家等向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	47,954	3.4	6,269	27.9	6,609	25.8	4,295	28.0
24年3月期第2四半期	46,387	△0.7	4,900	16.6	5,253	15.6	3,355	13.4

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 4,618百万円 (27.0%) 24年3月期第2四半期 3,635百万円 (32.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	57.49	—
24年3月期第2四半期	44.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	147,425	120,200	81.5
24年3月期	145,673	118,201	81.1

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 120,200百万円 24年3月期 118,201百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	10.00	—	35.00	45.00
25年3月期	—	10.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	40.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	107,800	4.4	17,400	20.3	18,000	17.8	11,800	27.8	157.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) キョーリン製薬グループ工場株式会社、除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、【添付資料】4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	74,947,628 株	24年3月期	74,947,628 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	230,105 株	24年3月期	228,377 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	74,718,285 株	24年3月期2Q	74,726,279 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。
2. 平成24年5月9日に公表いたしました平成25年3月期の連結業績予想のうち、通期について本資料において修正しております。詳細は4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における国内医薬品業界は、本年4月に実施されました薬価基準の改定（業界平均：6.0%、杏林製薬：6%台）等、薬剤費の抑制を目的とした諸施策により経営環境は厳しさを増しました。ヘルスケア事業では、消費の低迷もあり縮小傾向にある市場の中で企業間の競争は激化しました。

このような状況下、当社グループは、中期経営計画「HOPE100—ステージ1—（平成22年度～平成27年度）」に基づき、事業戦略である「ファーマ・コンプレックス・モデル（PCモデル）への取り組み促進」「ヘルスケア新規事業の拡充と育成」に積極的に取り組み、持続成長とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

売上面では、ヘルスケア事業の売上が若干減少したものの、医薬品事業における売上は新薬事業、後発品事業ともに前年度を上回る実績となり、売上高は479億54百万円と前年同期比15億67百万円（前年同期比3.4%増）の増収となりました。

利益面では、薬価改定の影響等により原価率が1.9ポイント上昇したものの増収効果により売上総利益は前年同期に対して84百万円増となりました。他方、販売費及び一般管理費は研究開発費の減少等により前年同期に対し12億83百万円減少したため、営業利益は62億69百万円（前年同期比27.9%増）となりました。経常利益は66億09百万円（前年同期比25.8%増）、当四半期純利益は42億95百万円（前年同期比28.0%増）と増益となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績

売上高	479億54百万円（前年同期比	3.4%増）
営業利益	62億69百万円（前年同期比	27.9%増）
経常利益	66億09百万円（前年同期比	25.8%増）
当四半期純利益	42億95百万円（前年同期比	28.0%増）

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①医薬品事業

〔国内新医薬品〕

本年4月に実施された薬価改定の影響はあったものの、呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科を中心とする特定領域の医師、医療機関に営業活動を重点化するフランチャイズカスタマー（FC）戦略の推進、更なる強化等により主力製品の普及の最大化に努めた結果、売上高は386億61百万円（前年同期比1.4%増）となりました。主力製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」が前年を上回る実績で推移しましたが、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」は前年を下回りました。

〔海外新医薬品〕

広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン（導出先：米国アラガン社）」に関連する収入が前年を上回り、売上高は10億23百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

その他、海外新医薬品事業では、杏林製薬㈱がガルデルマS.A.（本社：スイス）と平成24年10月に医療用外用抗真菌剤「ペキロンクリーム」に係わる資産譲渡契約を締結し、同剤について杏林製薬㈱が有する全ての資産を平成25年2月1日（予定）に譲渡することになりました。

〔後発医薬品〕

本年度より導入された後発医薬品の使用促進策等により保険調剤薬局への販売が増えると共に他社からの受託生産による売上も増加し、売上高は50億56百万円（前年同期比23.4%増）となりました。

〔一般用医薬品他〕

主要製品である哺乳びん殺菌消毒剤「ミルトン」の売上は若干の増加で推移し、その他の売上が前年を上回り、売上高は22億92百万円（前年同期比17.0%増）となりました。

この結果、当セグメントの売上高は470億34百万円（前年同期比4.2%増）となり、営業利益は63億36百万円（前年同期比32.0%増）となりました。

②ヘルスケア事業

景気停滞による消費低迷の影響等により縮小傾向にある市場の中で企業間競争が激化し、ナノカプセル技術を応用したスキンケア製品を取り扱うドクタープログラム㈱の売上が前年を下回る実績となりました。この結果、当セグメントの売上高は9億20百万円（前年同期比25.3%減）となり、営業損失は1億41百万円（前年同期の営業利益は5百万円）となりました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況は、以下のとおりです。

当社グループでは、世界の人々の健康に貢献できる新薬の創製と提供が新薬メーカーの存在意義を高め、持続成長に結びつくと認識に基づき、自社創薬、導入品の開発、既存品のライフサイクルマネジメント（新効能・効果取得、剤型追加）により特定領域において魅力ある製品パイプラインの構築に取り組んでいます。

当第2四半期連結累計期間における国内開発の状況としましては、慢性閉塞性肺疾患治療薬（配合剤）

「KRP-AB1102F」のPhⅡ臨床試験を平成24年5月より、慢性閉塞性肺疾患治療薬（単剤）「KRP-AB1102」のPhⅢ臨床試験を平成24年9月より、ニューキノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977Y」のPhⅠ臨床試験を平成24年7月よりそれぞれ開始し、気管支喘息治療剤「KRP-108」は平成24年9月に製造販売承認申請いたしました。また、潰瘍性大腸炎治療剤「ペントサ」は、平成24年8月に新用法・用量（1日1回投与）の承認を取得すると共に新剤型である坐剤を平成24年8月に製造販売承認申請いたしました。千寿製薬㈱へ導出している緑内障治療薬「アイファガン（点眼液）」が平成24年5月に同社より新発売されました。

なお、糖尿病治療剤「KRP-104」につきましては、開発の重点領域、優先度、競合状況等を総合的に勘案し、事業戦略上の観点から開発を中止することにいたしました。

自社創薬活動におきましては研究領域を呼吸器・泌尿器・感染症に重点化し、効率的かつ効果的な新薬の創製に努めております。その結果、研究開発費は前年同期に対して11億83百万円減少し、48億92百万円（前年同期比19.5%減）となりました。

生産部門では、中期経営計画「HOPE100-ステージ1-」において重点課題の1つとして掲げる「高品質の製品を安定的に低コストで供給する生産体制の確立」への取り組みとして、キョーリン製薬グループ工場㈱を設立し、MSD㈱が所有する滋賀工場の資産の譲受及び同工場で生産中のMSD製品製造の受託等に関する契約を平成24年5月に締結し、キョーリン製薬グループ工場㈱として10月1日より事業を開始しました。当社グループは、今後も高品質の製品を安定的に供給できる体制の構築を目指します。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、流動資産が現金及び預金、有価証券、商品及び製品、原材料及び貯蔵品、繰延税金資産の増加、受取手形及び売掛金の減少等により42億32百万円増加し、固定資産が有形固定資産の増加、無形固定資産、投資有価証券、繰延税金資産の減少等により24億80百万円減少したため、前連結会計年度末と比較して17億52百万円増加し、1,474億25百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金の増加、短期借入金、長期借入金、退職給付引当金の減少等により、前連結会計年度末と比較して2億47百万円減少し、272億24百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末と比較して19億99百万円増加し、1,202億00百万円となりました。

この結果、自己資本比率は81.5%となり、前連結会計年度末より0.4ポイント増加いたしました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、135億11百万円の収入であり、これは主に税金等調整前四半期純利益66億06百万円、減価償却費11億19百万円、売上債権の減少89億20百万円、たな卸資産の増加11億95百万円、仕入債務の増加16億78百万円、法人税等の支払20億90百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、11億09百万円の支出で、これは主に有価証券の取得による支出31億97百万円、有価証券の売却及び償還による収入34億00百万円、有形固定資産の取得による支出11億33百万円、投資有価証券の取得による支出17億99百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入18億88百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、38億11百万円の支出で、これは主に短期借入金の減少9億35百万円、配当金の支払26億09百万円によるものです。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して85億94百万円増加し、318億04百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間までの業績の状況を勘案し、平成24年5月9日に公表しました(通期)連結業績予想を下記のとおり修正いたしました。

売上高	1,078億円(前年同期比	4.4%増)
営業利益	174億円(前年同期比	20.3%増)
経常利益	180億円(前年同期比	17.8%増)
当期純利益	118億円(前年同期比	27.8%増)

なお、海外売上における為替レートは1US\$81円、1ユーロ97円を想定し、計画しています。

売上高は、医薬品事業(新医薬品、後発医薬品、一般用医薬品他)が当初予想を上回る見込みであることに加え、平成24年10月1日に事業を開始したキョーリン製薬グループ工場㈱を連結対象としたことから、上方修正いたしました。費用面は、キョーリン製薬グループ工場㈱の事業開始に伴う影響と、当社グループが重要課題として掲げる製品ポートフォリオ強化に向けた新薬パイプラインの進展による研究開発費の増加(約4億円増)等により前回予想を上回る見込みとなりました。これらの結果、平成24年5月9日の公表値から売上高は31億円増の1,078億円、営業利益は5億円減の174億円、経常利益は5億円減の180億円に修正いたしました。なお、当期純利益につきましては当初予想を変更いたしません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社の連結子会社であるキョーリン製薬グループ工場株式会社は、平成24年9月30日に増資を実施し、新たに特定子会社に該当する事となりました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる当第2四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,615	30,502
受取手形及び売掛金	45,067	36,148
有価証券	7,372	9,571
商品及び製品	11,016	11,661
仕掛品	632	700
原材料及び貯蔵品	9,089	9,572
繰延税金資産	2,340	2,586
その他	2,774	3,390
貸倒引当金	△58	△50
流動資産合計	99,850	104,083
固定資産		
有形固定資産	14,544	14,632
無形固定資産		
のれん	192	128
その他	653	619
無形固定資産合計	846	747
投資その他の資産		
投資有価証券	26,040	24,018
繰延税金資産	3,144	2,574
その他	1,667	1,501
貸倒引当金	△421	△133
投資その他の資産合計	30,431	27,961
固定資産合計	45,822	43,341
資産合計	145,673	147,425

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,043	10,721
短期借入金	3,159	2,171
未払法人税等	2,111	2,179
賞与引当金	3,110	3,283
返品調整引当金	52	36
ポイント引当金	65	53
その他	5,842	5,409
流動負債合計	23,385	23,854
固定負債		
長期借入金	316	137
退職給付引当金	2,949	2,453
役員退職慰労引当金	32	29
その他	788	749
固定負債合計	4,086	3,369
負債合計	27,471	27,224
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	112,797	114,477
自己株式	△318	△321
株主資本合計	117,931	119,608
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	537	847
為替換算調整勘定	△267	△254
その他の包括利益累計額合計	269	592
純資産合計	118,201	120,200
負債純資産合計	145,673	147,425

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	46,387	47,954
売上原価	16,611	18,093
売上総利益	29,776	29,860
販売費及び一般管理費	24,875	23,591
営業利益	4,900	6,269
営業外収益		
受取利息	100	60
受取配当金	69	107
受取賃貸料	134	134
持分法による投資利益	20	10
その他	78	87
営業外収益合計	403	401
営業外費用		
支払利息	27	31
投資事業組合損失	22	28
その他	0	1
営業外費用合計	50	61
経常利益	5,253	6,609
特別利益		
固定資産売却益	2	2
投資有価証券売却益	1	10
特別利益合計	3	12
特別損失		
固定資産除売却損	8	15
投資有価証券評価損	7	—
特別損失合計	16	15
税金等調整前四半期純利益	5,240	6,606
法人税、住民税及び事業税	1,860	2,157
法人税等調整額	24	153
法人税等合計	1,885	2,311
少数株主損益調整前四半期純利益	3,355	4,295
四半期純利益	3,355	4,295

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,355	4,295
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	282	305
為替換算調整勘定	△2	12
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	3
その他の包括利益合計	279	322
四半期包括利益	3,635	4,618
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,635	4,618
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,240	6,606
減価償却費	1,122	1,119
受取利息及び受取配当金	△169	△168
支払利息	27	31
投資有価証券評価損益 (△は益)	7	—
売上債権の増減額 (△は増加)	9,010	8,920
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,213	△1,195
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,995	1,678
その他	420	△1,558
小計	10,449	15,433
利息及び配当金の受取額	181	183
利息の支払額	△27	△14
法人税等の支払額	△3,466	△2,090
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,136	13,511
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	—	△3,197
有価証券の売却及び償還による収入	1,300	3,400
有形固定資産の取得による支出	△577	△1,133
有形固定資産の売却による収入	3	2
無形固定資産の取得による支出	△80	△40
投資有価証券の取得による支出	△3,827	△1,799
投資有価証券の売却及び償還による収入	609	1,888
その他	156	△229
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,415	△1,109
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,990	△935
長期借入れによる収入	100	—
長期借入金の返済による支出	△164	△233
配当金の支払額	△2,604	△2,609
その他	△60	△33
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,719	△3,811
現金及び現金同等物に係る換算差額	△28	2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,026	8,594
現金及び現金同等物の期首残高	26,665	23,210
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,638	31,804

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	45,155	1,232	46,387	—	46,387
セグメント間の内部売上高又は 振替高	42	0	42	△42	—
計	45,197	1,232	46,430	△42	46,387
セグメント利益	4,801	5	4,807	93	4,900

(注) 1. セグメント利益の調整額93百万円は、主にセグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	47,034	920	47,954	—	47,954
セグメント間の内部売上高又は 振替高	20	0	20	△20	—
計	47,054	920	47,975	△20	47,954
セグメント利益又は損失 (△)	6,336	△141	6,194	74	6,269

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額74百万円は、セグメント間取引消去等によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。